

# 卵巣がん患者さんの試料を用いた卵巣がん分子機構の解明と新規治療法探索

## 1. 研究の対象

1999年1月から2019年3月31日までに国立がん研究センター中央病院にて包括的同意が得られている患者さんの内、診療を受け卵巣がんと診断され、外科的切除された卵巣がん組織及び腫瘍内容液、腹水等を本研究の対象とします。

## 2. 研究目的・方法

卵巣がん組織、細胞から抽出されたDNA・RNAあるいは蛋白質を用いて、卵巣がん細胞におけるゲノム異常や遺伝子発現変化を解析します。具体的には、シーケンズ解析による遺伝子変異の検出・遺伝子発現動態の解析、アレイCGH等を利用したゲノム異常領域の検出、DNAチップを用いた過メチル化・遺伝子発現動態の解析等を行います。また、質量分析やシーケンサーなどを用いてDNA損傷の度合いを調べます。また、樹立した卵巣がん細胞を用いて薬剤処理やsiRNAを用いてノックダウンすることで新規治療標的探索を行います。これらの解析から、卵巣がんによるシグナル伝達の仕組みを明らかにし、卵巣がんに対する新規治療標的の探索、分子標的薬の治療抵抗性の分子メカニズムを把握したいと考えています。

研究実施期間は、研究許可日から平成31年4月1日までとします。但し、しかるべき手続きを経て研究期間の延長はあり得ます。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

予診カードに記載されている情報を元に、性別、発症年齢、家族歴、既往歴、併存症、アレルギーの有無について、また患者さんからの診療情報、具体的には治療内容（放射線療法・化学療法の有無）、切除標本の病理診断（大きさ、組織型、分化度、腫瘍の拡がり、浸潤・転移の程度、セルブロック、免疫染色等）、予後情報等を本研究に用います。また手術で摘出された卵巣がん(良性、境界悪性腫瘍を含む)の試料(腫瘍・腫瘍内容液・腹水)や抽出されたDNAやRNA等を本研究に用います。

## 4. 外部への試料・情報の提供・公表

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターのバイオバンク事務室が保管・管理します。

## 5. 研究組織

- ・国立がん研究センター

研究所：

河野 隆志、荻原 秀明、高橋 一彰、黒田 高史

中央病院：

加藤 友康、石川 光也、池田 俊一、吉田 正行、吉田 裕、渡邊 麗子

・東京慈恵会医科大学：

岡本 愛光

・三井情報株式会社

## 6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 高橋 一彰

TEL: 03-3542-2511/ FAX: 03-3542-0807

研究責任者：

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野 隆志

研究代表者：

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野 隆志